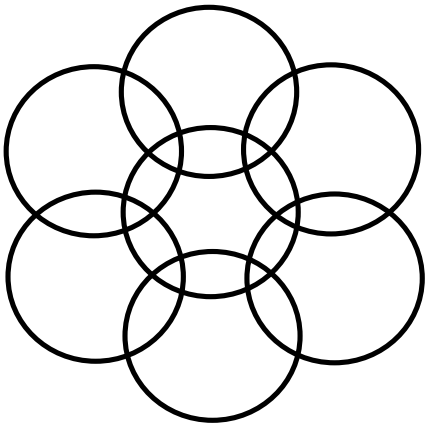
令和7年
七飯町の交通事故発生状況



七　　飯　　町
七飯町交通安全推進委員会

☆ 令和7年の七飯町内の交通事故発生状況(人身事故のみ)☆

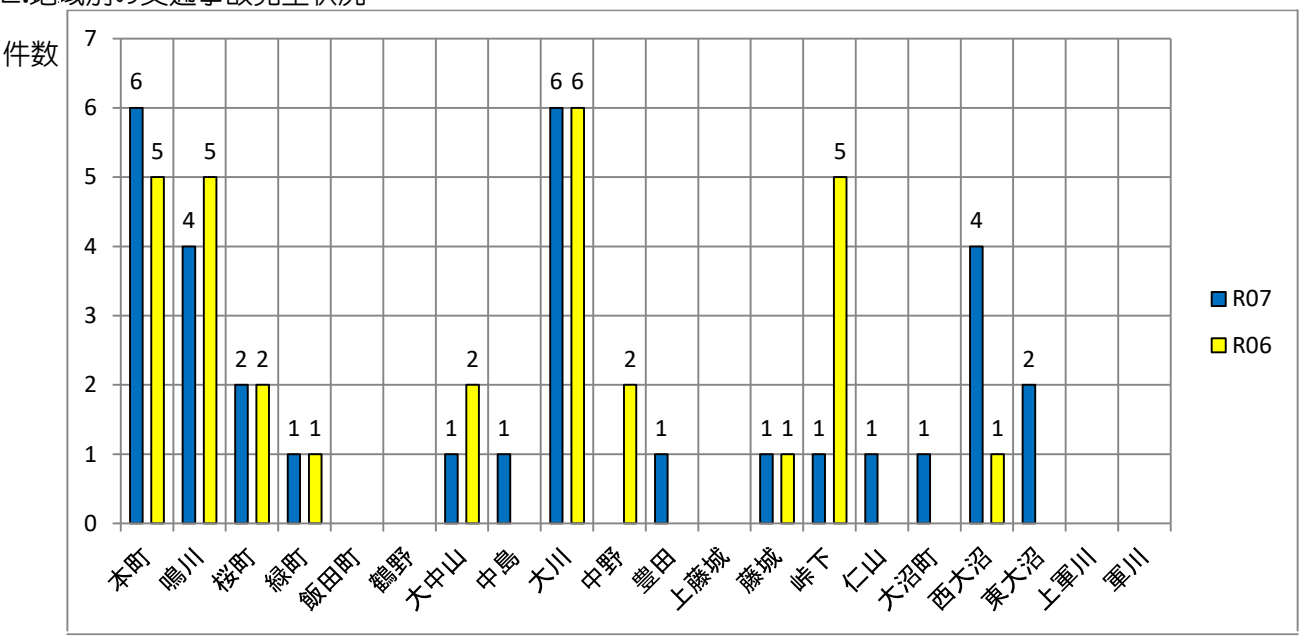
1.交通事故発生件数と死傷者数の状況

	件数	死者数	重傷者数	軽傷者数
令和7年	32	1	2	55
令和6年	30	0	4	30
R7とR6の比較	2	1	−2	25

交通事故死ゼロ日数
令和7年12月31日時点
351日

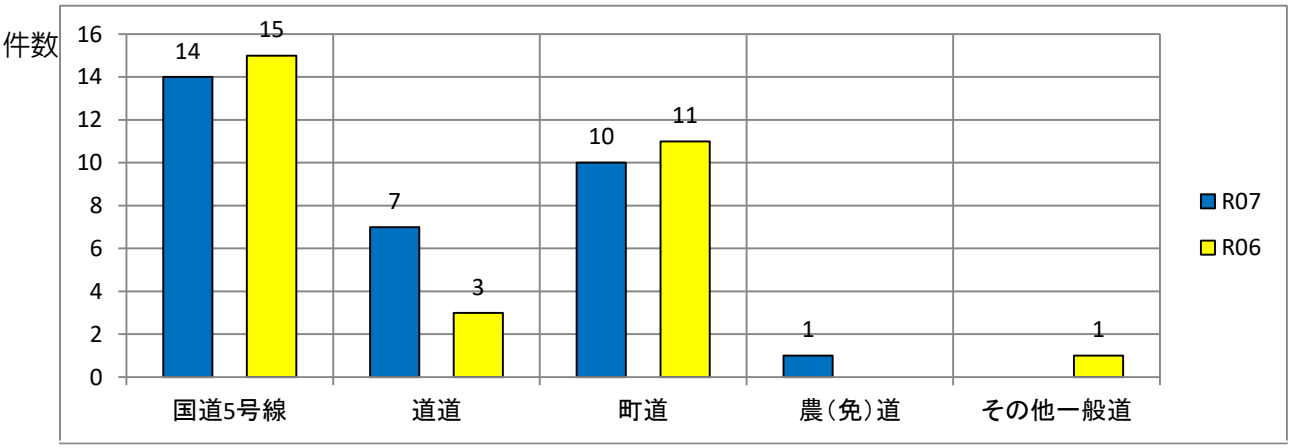
令和6年と比較すると、発生件数、傷者数、共に増加しました。また、1月に町内中島において、大型貨物車が左折する際、歩行者を巻き込む交通死亡事故が発生し、交通事故死ゼロ日数は1,303日で途切れました。

2.地域別の交通事故発生状況



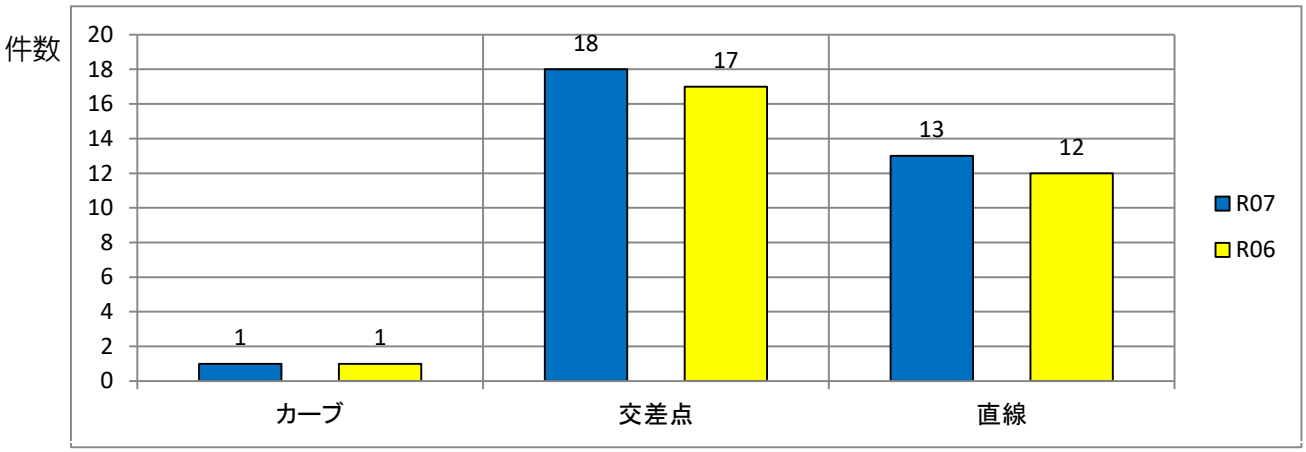
町内で最も人口が多い地域である大川の発生件数は6件と最多となっており、本町も同様となっています。近年は住宅街を中心とした生活圏での事故が多くなっていましたが、令和7年は西大沼、東大沼における郊外部での「通過型」事故が増加しました。

3.道路別の交通事故発生状況



国道5号線(函館新道も含む)と町道の発生件数はほぼ横ばいでしたが、道道での件数が増加しました。

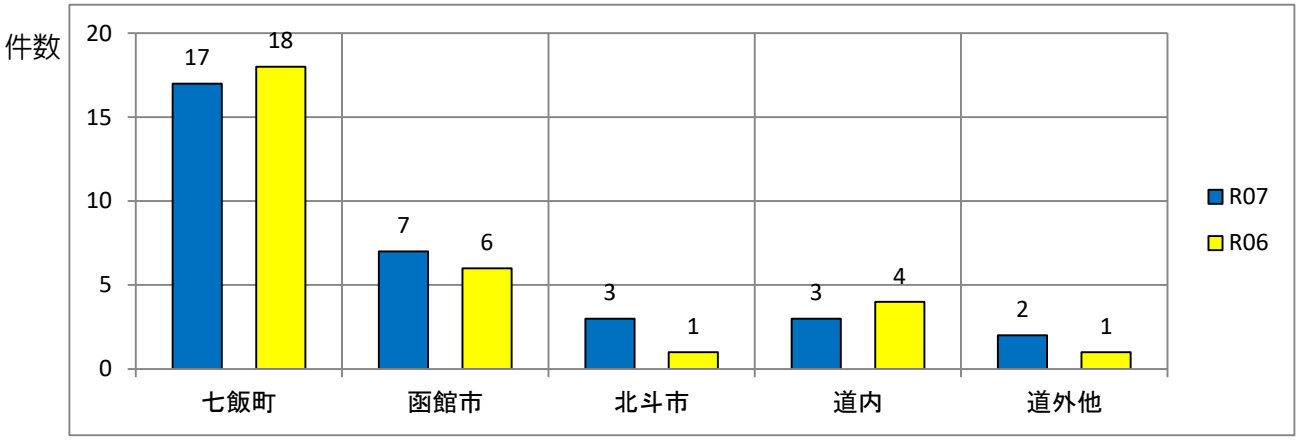
4.交通事故発生現場の形態



交差点での事故が18件(56.3%)となっています。右左折時には横断歩道を渡ろうとしている歩行者等がいないか死角も含めて目視でしっかり確認し、対向車等にばかり気を取られないように注意しましょう。

また、歩行者も横断歩道上においては車両の動きに注意し、「自分に気づいていないかもしれない」と、「かもしれない行動」を心がけましょう。

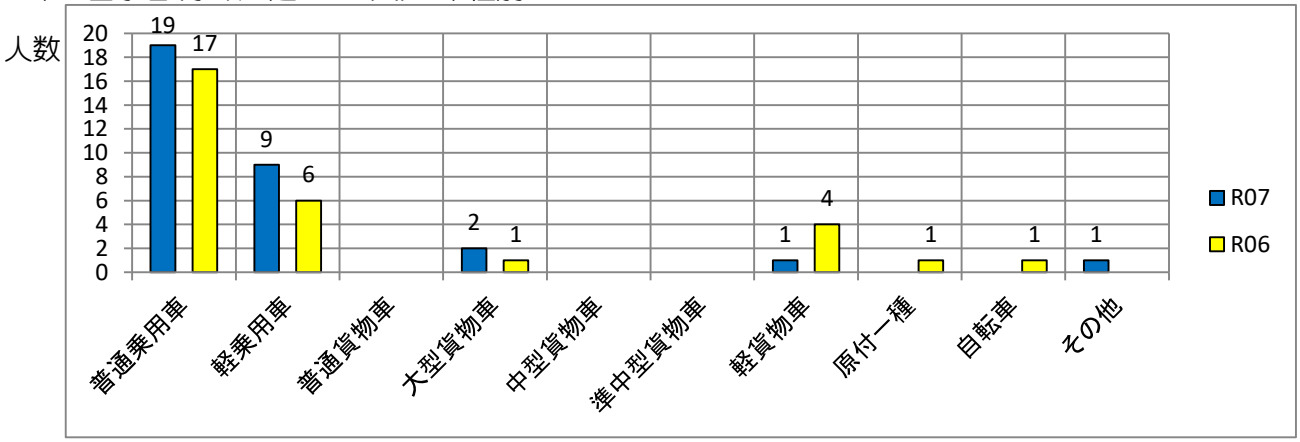
5.第一当事者(事故を起こした人)の居住地



事故全体における七飯町民の件数は17件(53%)となっており、町民以外の事故が15件(47%)となっています。

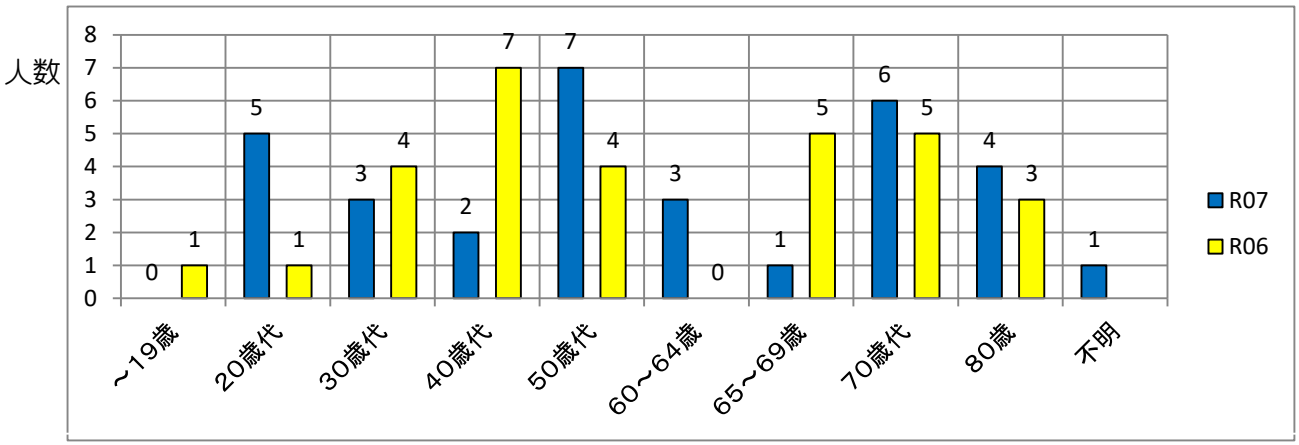
また、町民が事故を起こし、被害者も町民というケースは32件中4件で、事故全体の12.5%となっており、令和6年の36.7%から大幅に比率が下がりました。

6.第一当事者(事故を起こした人)の車種別



普通乗用車を利用して事故を起こした方が19名(59.3%)と最も多く、約6割を占めています。

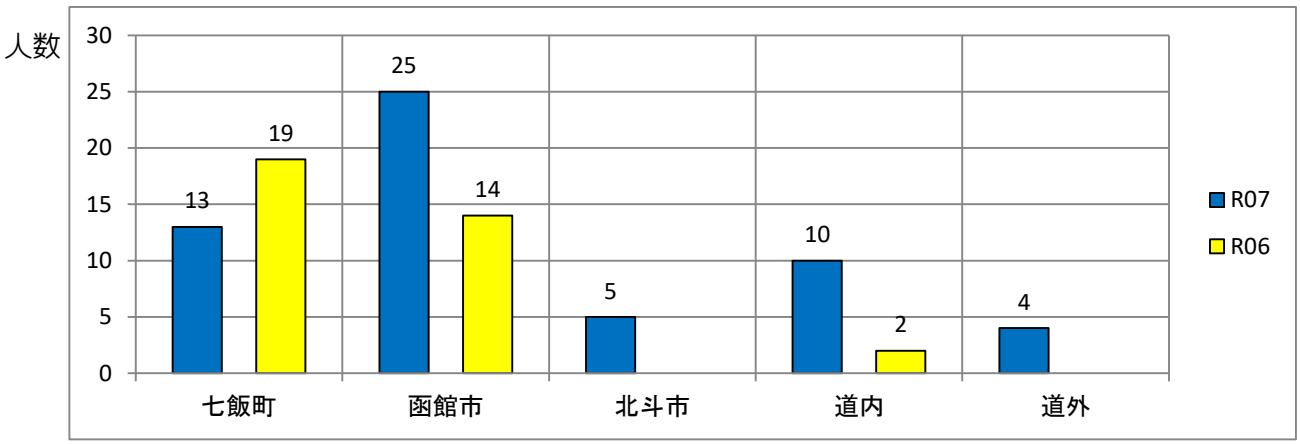
7.第一当事者（事故を起こした人）の年代別



事故を起こした方の年代は50歳代が最も多くなっています。（21.9%）

なお、50歳代は7名の内、5名が七飯町民となっています。「自分は大丈夫」と過信せず、自分の運転を客観視してみましょう。

8.第二・第三当事者（被害に遭った人）の居住地

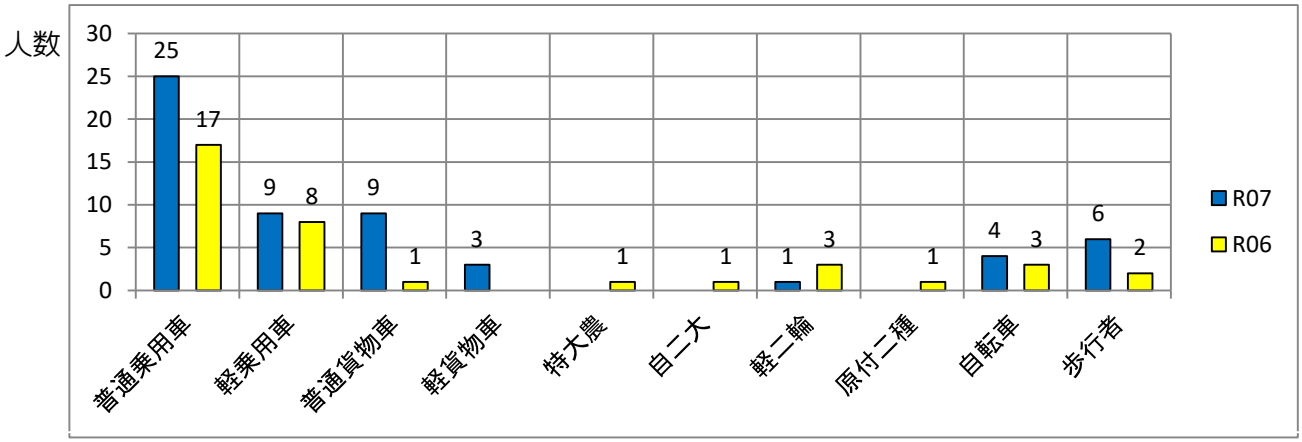


被害に遭った方は、七飯町民が57名中、13名（22.8%）と、令和6年の19名から大幅に減少しました。

ただ、多数の町外の方が被害におっており、令和7年の傾向としては、1件の事故で同乗者を含めた複数名が負傷をするケースが多く、3名以上負傷した事故は7件で、最も多いのは1件の事故で8名が負傷しました。

なお、令和7年の傷者数、死者数は合わせて58名ですが、内1名は第1当事者なので除いています。

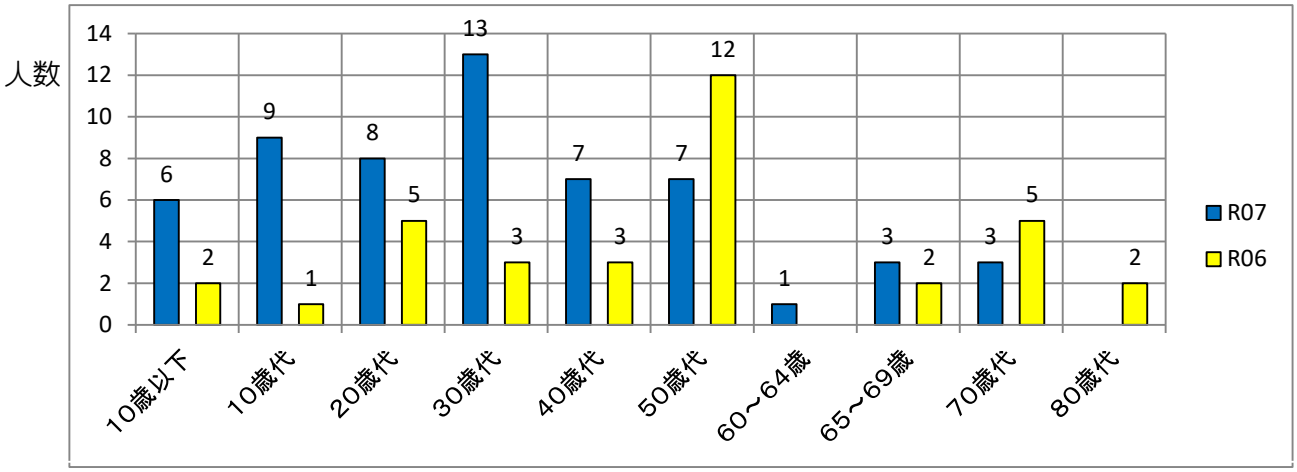
9.第二・第三当事者（被害に遭った人）の車種別



普通乗用車を利用して被害に遭った方は、25名（43.9%）と最も多く半数を占めています。

歩行者が被害に遭う事故は6件で、内1件が交通死亡事故となっています。年代別の内訳としては、10歳代が2名、40歳代が1名（死亡）、65歳以上の高齢者が2名となっています。

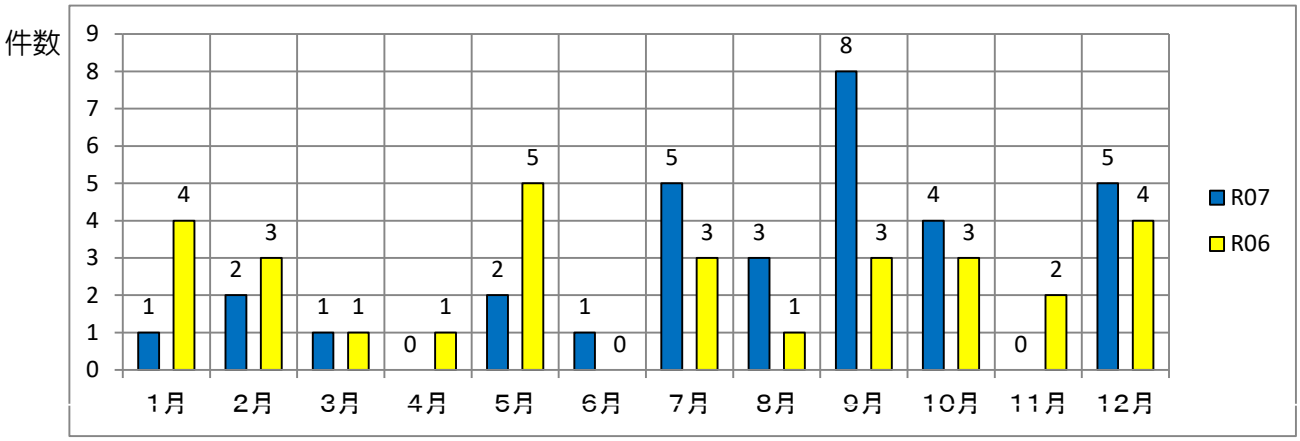
10.第二・第三当事者（被害に遭った人）の年代別



被害に遭った方は30歳代が13名と事故被害者全体の22.8%となっており、若年層を中心に大幅な増加となっています。10歳以下、10歳代は自動車同乗中に巻き込まれたケースが多く、15件中、10件となっています。

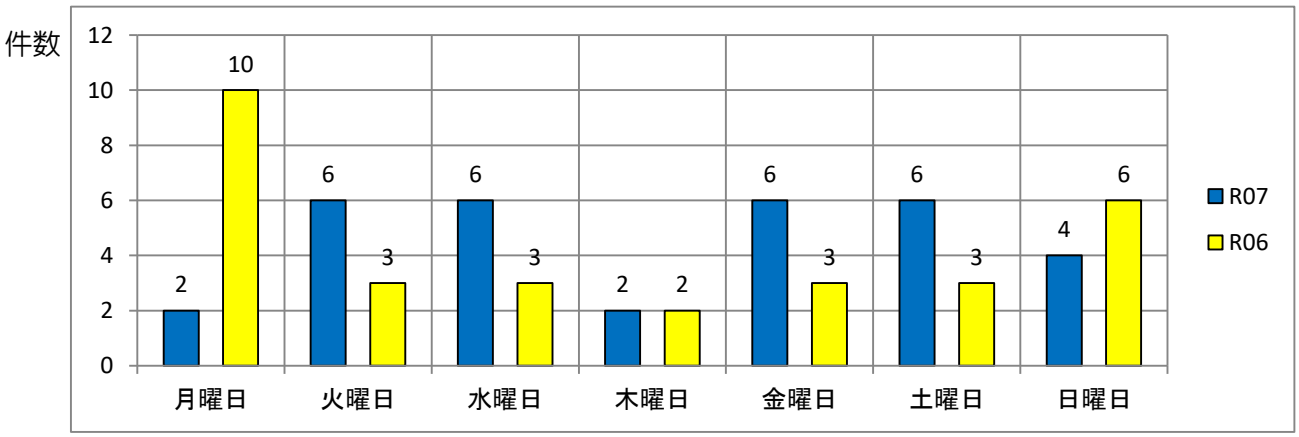
また、交通統計上、高齢者に分類される65歳以上の方が6名（10.5%）と約1割に留まっており、高齢者が被害に遭うケースは減少しています。

11.月別の交通事故発生状況



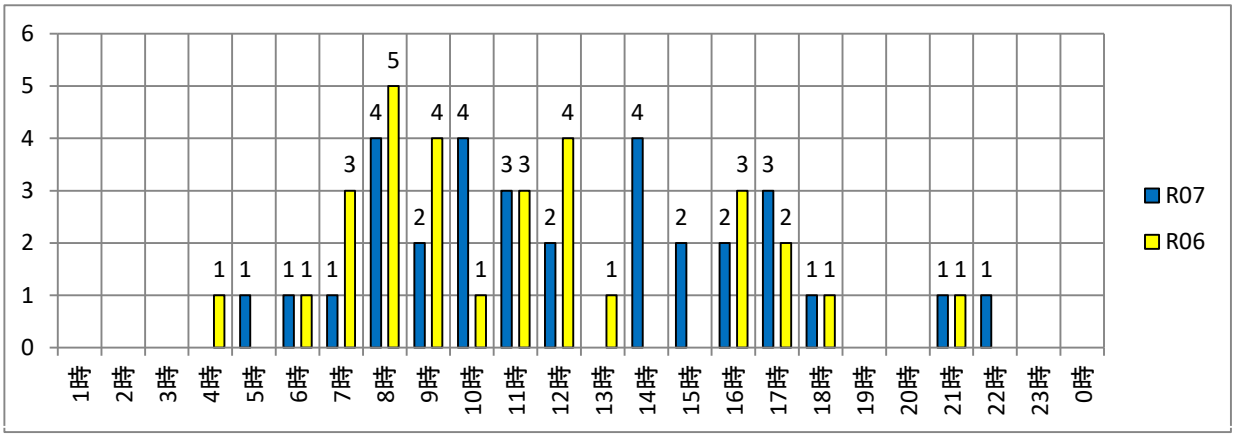
7月からの下半期が多く発生しており、特に9月が8件と大幅に増加しました。

12.曜日別の交通事故発生状況



月曜日が減少したものの、それ以外の曜日は増加となりました。

１３.時間帯別の交通事故発生状況



通勤・通学時間帯以外の時間帯で事故が発生しています。前方を確認しつつ、適切な車間距離を取りましょう。

～　まとめ（令和8年の交通事故対策）として　～

①加齢に伴う身体能力の衰えを客観的に自己分析、または家族の方に助言をもらい、事故を起こしてしまう前に運転免許の返納について考えましょう。

②相手が気づいていなくても、自分が気づいていれば大半の事故は防ぐことが出来ます。歩く時、自転車に乗る時、車に乗る時、周囲を常に意識しましょう。

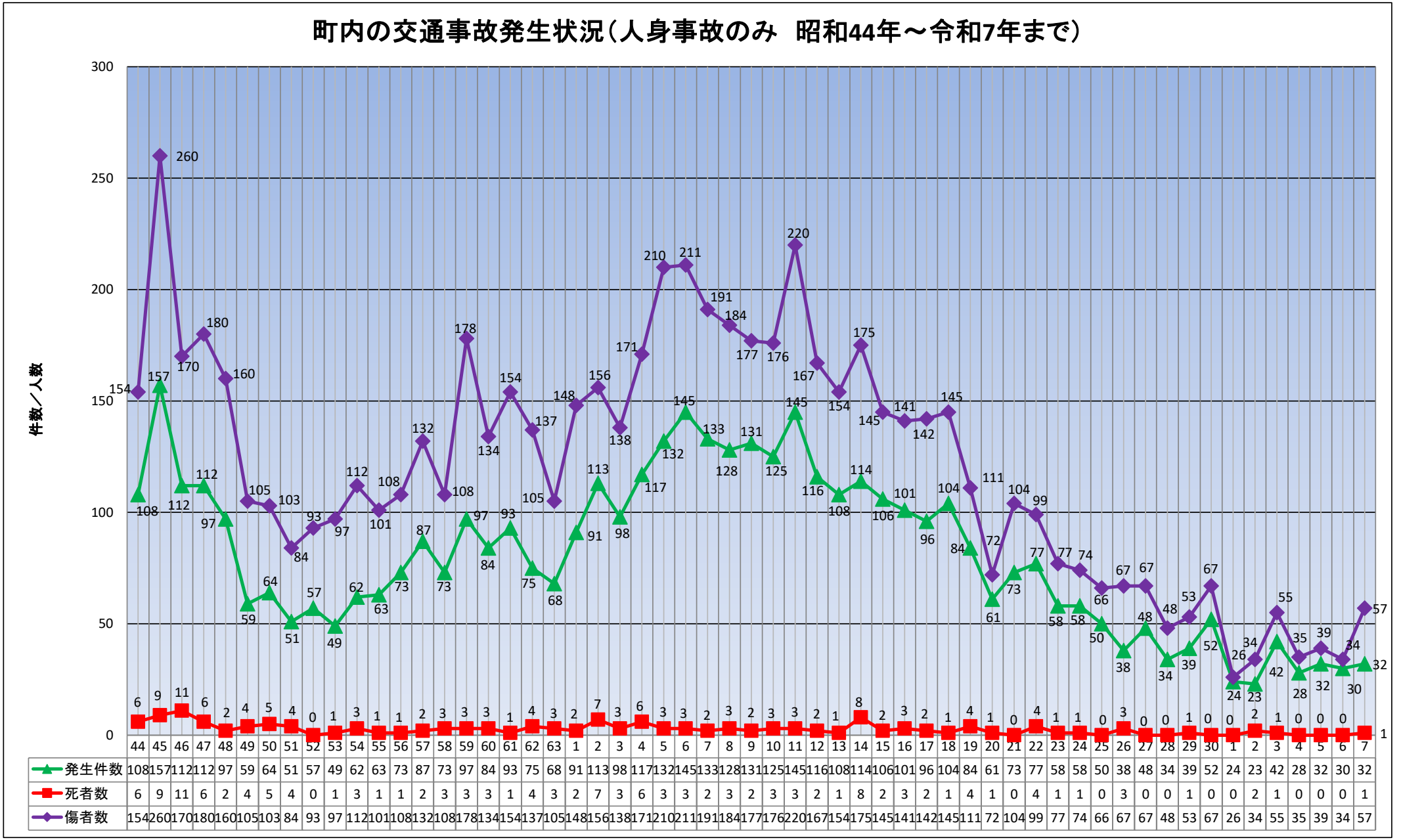
③自宅付近やいつも通勤等に使う慣れた道路でも油断は禁物です。交通事故は、いつ、どこで起きるか分からないことから、常に初心に帰った運転を心がけましょう。

④交差点通過時の右左折は、対向車ばかりに気をとられず、死角になる部分を意識し、目視による確認で歩行者、自転車利用者がいないか注意しましょう。
歩行者、自転車利用者も交差点通過時は車両の動きに気を配り、「ドライバーは自分の存在に気付いていないかもしれない」と注意しましょう。

⑤自転車でも交通事故を起こせば自動車と同様に賠償責任が生じます。事故を起こさないことが前提ですが、万が一に備えて自転車保険に加入しましょう。

⑥夜間は周囲の状況が確認しづらくなります。歩行者、自転車利用者、ドライバー、全ての立場で交通安全を意識し、「かもしれない」行動を心がけましょう。

町内の交通事故発生状況（人身事故のみ　昭和44年～令和7年まで）



	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7
発生件数	108	157	112	112	97	59	64	51	57	49	62	63	73	87	73	97	84	93	75	68	91	113	98	117	132	145	133	128	131	125	145	116	108	114	106	101	96	104	84	61	73	77	58	58	50	38	48	34	39	52	24	23	42	28	32	30	32
死者数	6	9	11	6	2	4	5	4	0	1	3	1	1	2	3	3	3	1	4	3	2	7	3	6	3	3	2	3	2	3	3	2	1	8	2	3	2	1	4	1	0	4	1	1	0	3	0	0	1	0	0	2	1	0	0	0	1
傷者数	154	260	170	180	160	105	103	84	93	97	112	101	108	132	108	178	134	154	137	105	148	156	138	171	210	211	191	184	177	176	220	167	154	175	145	141	142	145	111	72	104	99	77	74	66	67	67	48	53	67	26	34	55	35	39	34	57